



企業訪問レポート

確かな品質で子供たちに安心・安全な体操服や水着を提供

南和繊維工業株式会社 奈良県御所市

創業以来、お客様の多種多様な要望に応えるため、一枚一枚真心を込めて縫製し、確かな品質の体操服や水着を全国の約 2,200 の小・中・高校に提供している南和繊維工業株式会社。

会社設立時、建物の入口にツバメが巣を作り、縁起が良いということからレッドスワロー（赤ツバメ）を商標として登録。本社の屋根と全製品に赤いおしゃれなロゴマークが記されている。また創業者が掲げた誠実第一主義を現した同社の社是である「仏心で仕事をすれば、ツバメ印に後光がさす」は、毎週 1 回、昼礼時に全員で唱和し、一体感を高め、日々の業務に邁進している。

会社概要



会社名：南和繊維工業株式会社
所在地：奈良県御所市室 137 番地
電話：0745-65-2351
FAX：0745-65-1707
創業：1938 年（昭和 13 年）
設立：1950 年（昭和 25 年）
代表者：代表取締役社長 中川 浩司
資本金：2,000 万円
従業員：80 名
事業内容：学販商品ニットトレーニングウェア・スイムウェア等の製造
URL：<http://www.nanwa-web.co.jp/>



南和繊維工業株式会社の本社工場

創業以来、縫製工場として品質にこだわる

南和繊維工業株式会社（旧中川繊維）は、戦争未亡人援護のため昭和 13 年に創業、軍服などの縫製を手がけていた。昭和 20 年代にはブラウス、カッターシャツに加えて、自社ブランドのメリヤス肌着の一貫生産体制を整え、同社の礎を築いた。また昭和 30 年代後半には大手肌着メーカーの寡占化が進む状況に危機感を持ち、脱肌着を目指して小・中・高校向けの白色のスポーツウェア（児童・生徒向けの体操服）の開発に着手し、新たな分野への進出を果たした。

さらに昭和 44 年にカラーニットのスポーツウェア（トレーニングシャツ、パンツ）の開発に成功。以来全国の児童・生徒向けに体操服の販売が始まり、今では、入学シーズンに売上高の約 7 割が集中するほどの事業の柱に成長した。



紫外線を遮断し肌を保護する目的で開発した教職員用の水着（左）と生地に防融素材を使用し耐久性を重視した小学生用の冬物体育着（右）



同社の研究開発は、これに留まることなく平成 12 年には、水泳の授業を担当する小学校の女性教師向けに紫外線遮断用の長袖、長ズボン、手甲付きの水着を開発。全国的な人気商品の一つに育っている。また同機能の素材を活かした紫外線対策の児童用スクール水着も開発し、販路を拡大している。

確固たる社内生産体制により納期の遅延なし

同社の高品質な製品を作り出すのが奈良本社工

場だ。同工場では、情報収集から始まる商品開発と最新のCADでの型紙作成、マーキング（型入れ）等を行う企画部、次の工程が作業しやすいように正確な作業を心掛ける裁断部、お客様の多種多様な要望に応えるため1枚1枚丹念に仕上げる縫製部、全数検査を実施し、確かな製品を届ける仕上げ部など、各部が連携し製品を加工している。特に縫製部門では多能工化が進み、午前中に裁断すると翌日には出荷することが可能な体制となっている。さらに20年間、納期遅延なしを継続する同工場の社内生産体制は、取引先の販売会社からも絶大な信頼を得ている。



1枚1枚真心を込めて縫製する同工場の現場風景

社内生産体制を支える柔軟な勤務形態

同社の生産体制を支えるのが、高齢者等の柔軟な勤務形態である。同社は、平成26年度「高齢年齢者雇用開発コンテスト」で独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長表彰の優秀賞を受賞するなど、社員のさまざまな事情を配慮し、多様な勤務形態を導入している。

現在、社員は80名で、その大半が縫製作業を担当し、女性社員が全体の約80%を占めている。また60歳以上の社員の割合は全体の15%を占める。定年は60歳だが、希望者には65歳まで正規社員として雇用する継続雇用制度を導入している。その後は、雇用年齢の上限を設けることなく社員からの申出があるまで雇用を継続している。

中川社長は「我々が手がけている縫製の仕事は、高い技能・技術が必要であり、また非常に根気が

必要な仕事である。そのため仕事が厳しいというイメージがあるのか、社員を募集しても、若年者の応募が少なく、必要な人員を確保することが難しいのが現状だ。そのため高い技能や技術を持つ60歳以上の社員が、定年を過ぎても以前と何ら変わることなく力を発揮してくれることは、当社にとって大きな戦力となっている」と語る。

さらに「70歳間近の人が元気に働いている姿は、若手や中堅社員も希望すれば同じように働き続けることができるという安心感を与えているようだ」と定年を超えて働いている社員の存在が、若手や中堅社員にインセンティブを与えていると指摘する。

一方、60歳を過ぎれば、体力的に個人差が目立ってくるのも事実で、フルタイム勤務が厳しいケースもある。また60歳を過ぎれば新たな仕事にチャレンジするよりも得意な分野の仕事を短時間だけ続けたいという意向もあるなど、社員の希望を勘案しながら、持てる力を存分に発揮してもらえるような勤務形態を模索している。

感謝の気持ちを忘れずに新しい事業に挑戦

中川社長は「バブル崩壊の頃は、納期遅れが続くなど大変なこともあったが、多くのお客様や取引先に支えられたおかげで、今日があると感謝している。また、どんな時も一生懸命に業務に取り組む社員の頑張りのおかげで当社の成長があり、私は仕事で苦勞を感じたことはない」と笑顔で語る。

「我々の仕事は、最終ユーザーからの声を直接聞くことは少ないが、児童・生徒さんが運動会などで当社の体操服を着て競技している姿を見ると、この仕事をしていて本当に良かったと感じる」と優しい目で語る中川社長。「これからも子供たちに安心・安全な体操服や水着を提供することにより、多くの子供たちに喜んでもらいたい。また社員が今以上に安心して働ける会社を築きながら、一丸となって新しい事業に挑戦し続けたい」と創業70年を超えた今も、新しい事業にチャレンジする姿勢を崩さない。（橋本公秀、太田宜志）